

ちよつと待った！子宮頸がんワクチン

充分な情報提供、検診率アップ、性教育を...

◆重篤な副反応が多発

子宮頸がんワクチンは癌を予防できるワクチンとして、この4月からは中学1年女子生徒を対象に定期接種となりました。ところが、各地で、強い痛みや四肢の運動機能低下など重篤な副反応が報告され(医師が認めた症例358件)、被害者連絡会が発足したこともあり、厚生労働省は、6月14日「積極的勧奨は差し控える」通知を各自治体に発しました。

副反応はこれまで市内で7件、重篤ではなかったとの報告でしたが、その直後に千葉市内で1件重篤な副反応を疑う症例報告が7月9日に国からあったと聞きました。

◆親の心は

自費なら4〜5万円かかるワクチンですから、「やっておかなければ損」という気持ちになるのは当然。わが子が癌にならないようにと接種を決めた親心が、娘を苦しめることになってしまった当事者の無念はいかばかりかと思えます。

◆ワクチンの限界

そもそも子宮頸がんは、主に性交渉によって、ヒトパピロームウイルス感染が原因で発病しますが、ワクチンが効くとされる子宮頸がんの初期段階に至るのは10万人に7人にしかすぎません。また、ワクチンは5〜7割を占める2つの型のウイルスにしか効かないため、ワクチンを打てば検診をしなくていいというわけではないのです。

定期的な検診、早期発見、早期治療でほぼ100%治る病気ですが、千葉市の受診率の平均は29%。これでは、安心できません。

◆自治体の役割は

野田市のように自治体として接種を見合わせてほしいと求めましたが、「国の検診状況を注視する」とのこと、希望すれば接種は可能のままです。これ以上の被害をださないために、自治体からの予防接種の情報提供はリスクを含めて充分に行うこと、検診率のアップを図ること、学校などでの年齢に応じた性教育を充実させることを強く求めました。



千葉市議会 議会改革の動き

2011~2012年にかけての議会改革の歩みと成果の報告会が、6月18日に市民説明会という形で、千葉市議会として初めて、本会議場で開催された。

■2年間の主な成果

- 千葉市議会の基本理念を定めたこと
- 議員報酬の妥当性を検証する調査をおこない、有識者の意見も聞き、現行の報酬についてはおおむね妥当との結論に達したこと
- 委員会に一問一答方式を採用したこと
- 予算決算特別委員会分科会は常任委員会の単位で設置すること

今議会からは議長も替わり、議会改革推進協議会を新たに設置し、2014年12月までの間、前の期に積み残した、議員定数等の諸課題に取り組むことになった。

市民ネットワークとしてはこれまで同様、議会報告会の開催等を呼びかけていきたい。

このままでいいの？

公民館運営審議会

各区の中核公民館には、公民館運営審議会が設置されていますが、毎月開く自治体もある中、千葉市は年2回のみ。委員は、研修もないため、公民館の法的根拠、本来の目的や歴史、他の先進例もわからないまま、毎年度の事業報告と新年度事業についての審議をするだけです。

公民館の将来像について、すでに議会では指定管理者制度の導入など市の意向が示されていますが、教育委員会は、いまだに公民館運営審議会委員に意見を求めています。市と市民を結ぶ大事な場である審議会には、市民アンケートをとってからという、非常に後手後手の段取りで聞くつもりでしょうか。

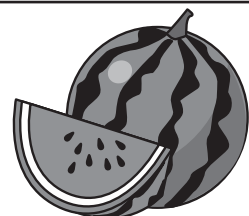
もっと早い段階で、議論のできる時間も確保し、この審議会委員の意見も聞きながら、公民館の将来像を考えるべきではないでしょうか。

委員の研修も取り入れてもっともっと活性化してほしい公民館運営審議会です。

千葉市議会女性市議の会から 慰安婦容認発言に抗議！

5月13日の橋下大阪市長の慰安婦容認発言は、女性はもちろん、男性の人格をも否定し深く傷つける重大な人権侵害です。また、戦争という暴力遂行のために女性の性を利用することを容認し、女性を道具のごとく扱う橋下氏の発言は公職を務めるものにふさわしくありません。

よって千葉市議会の女性議員9名全員で「橋下徹大阪市長・日本維新の会共同代表による日本軍『慰安婦容認』発言に強く抗議し撤回と謝罪を求める声明」を6月14日、同市長と日本維新の会、大阪維新の会宛に送りました。



◆今年度の所属委員会等

- ・ 山田京子 総務委員会 議会改革推進協議会 少年自然の家事業運営協議会委員 観光議員連盟役員 会派幹事長
- ・ 湯浅美和子 都市建設委員会 広報委員会 姉妹友好都市議員連盟役員 会派会計